

つきたい力

取組みの概要・ポイント

学びのサイクル(5つのステップ)を
自律的に活用していく力

高鷲中学校では情報活用能力を「①課題の設定⇒②情報の収集⇒③整理・分析⇒④まとめ・表現⇒⑤振り返り・改善」の5つのステップ(=「学びのサイクル」)として定義しています。本校は、「高鷲DREAMプロジェクト」、「情報活用能力を問う問題の出題」、「学びチェックシート」の3つの取組みを中心に、教員と生徒がコラボレーションし、**教員と生徒がともに「学びのサイクル」を意識して高め合っている学校体制**をめざしています。

(具体的な取組みの内容) 「高鷲DREAMプロジェクト」「情報活用能力を問う問題の出題」「学びチェックシート」により教員も生徒も「学びのサイクル」を実現する。

「授業×総合」

2024年度高鷲中
PRムービー



2024年度高鷲中
学校公開特設サイト



「高鷲DREAMプロジェクト」
の概要はこちらから



探究的なサイクルを
意識した授業改善

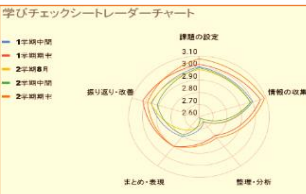
高鷲DREAMプロジェクト

(国語)オリジナル枕草子を作成しよう！ (社会)過疎地域の地域おこしを企画しよう！ (技術)エタマをたくさん育てては？ (保健)ハードルのタイムを上げるには？



情報活用能力の5つのステップを意識した探究型の授業展開を研究しています。授業の内容ではなく、生徒たちの資質・能力を意識した授業展開を心がけることで、自然と生徒たちの活動が中心となる単元構成になっていきます。また、より良い学習者を「学びの達人」として表彰することで、生徒たちの意欲の向上へとつなげます。

学びチェックシート



本校の生徒たちはテストごとに自分の情報活用能力を振り返ります。テストごとに、このサイクルを作ること、テストの点数や授業内容のことだけでなく、「学びの達人」をめざして、自分の学び方を振り返る習慣を身につけていきます。上のグラフは、2学期期末テスト終了時点での本校生徒全員の自己評価の結果を示しています。

「学びチェックシート」
の概要はこちらから



課題の設定

統計データから課題
を見つけている場面

情報の収集

図書教材から情報を
収集している場面

整理・分析

収集したデータを
グループで分析している場面

まとめ・表現

自分なりにまとめた情報を
プレゼンしている場面

振り返り・改善

自分たちがプレゼンしたものを
振り返っている場面

情報活用能力を問う問題の出題



全ての教科で情報活用能力を問う問題を出題します。この正答率を客観的なデータとして集めていくことで、授業改善に役立てるとともに、子どもたちの情報活用スキルを定着させることを狙っています。上のグラフは昨年度から本年度の2学期期末テストまでの本校の正答率の推移です。

「情報活用能力を問う問題」
の概要はこちらから



※ 使用している図・イラスト・ロゴ等は、全てCanvaの著作権フリー素材を活用しています。

取組みを通しての教員と子どもの変容

【教員の変容】これまで教科の内容に注視してきた教材研究が、資質・能力(特に情報活用能力)を活用している生徒たちの具体的な姿をイメージしながら、教材研究を実施するようになりました。

【子どもの変容】委員会活動等の生徒主体の活動や各教科の授業において、今まで受け身であった姿から、少しずつ自律的な姿へと変容してきています。

右の二次元コードから、教員と生徒の変容の具体例をいくつか紹介しています。⇒

